

令和6年度 理科「生物総合」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	園芸科 情報処理科 3年 A.C 組
教科書	改訂新生物基礎(第一学習社)	副教材等	なし

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。
 目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。
 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 重点目標

生物総合で学習する生物現象は、日常生活や社会と関連しているということに気がつく。
 授業を通して、自分自身(ヒト)の体の中での出来事に興味を持つ。
 目に見える世界だけでなく、目には見えないマイクロワールドの世界にも興味を持つ。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第2節 免疫	自然免疫	・物理的、化学的防御、食作用により異物に対する体の仕組みを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・授業への取り組み ・発問に対する対応 ・ノート ・ワークシート ・提出物 ・中間考査
		獲得免疫	・抗原抗体反応について学ぶ。	
5		免疫と疾病	・自己免疫疾患、アレルギー、エイズについて学ぶ。	
		中間考査	・拒絶反応について学ぶ。	
6	第1節 植生と遷移	免疫と医療	・予防接種、血清療法など免疫を利用した医療について学ぶ	
さまざまな植生		・土地ごとの植生とその特徴について学ぶ。		
7		植物と環境	・陰生植物と陽生植物、陽葉・陰葉などの光に対する植物の特徴を学ぶ。	
		植生の遷移と環境	・作用と環境形成作用によって土壌が形成されることを学ぶ。	
		植生の破壊と遷移	・遷移の要因(光環境、土壌の状態)とその流れを学ぶ。	期末考査
9		遷移とバイオーム	・植生の遷移とバイオームの関係を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・授業への取り組み ・発問に対する対応 ・ノート ・ワークシート ・提出物 ・中間考査
10		日本のバイオームと気候生態系	・日本のバイオームについて、垂直分布と水平分布を学ぶ。	
		生物どうしの関係と種の多様性	・生態系における生物の種の多様性を見だし、生産者と消費者の関係を学ぶ。	
11			中間考査	
12	第2節 生態系とその保全	生態系のバランスと攪乱	・生態系のバランスが人間活動による人為的攪乱の影響で変化することを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・授業への取り組み ・発問に対する対応 ・ノート ・ワークシート ・提出物 ・期末考査
		人間活動による生物の持ち込み	・外来生物や生息地の破壊、生息地の分断化による生態系への影響について学ぶ。	
		生息地の破壊		期末考査
		生息地の分断化		

1	第2節 生態系とその保全	生態系の保全とその意義	<ul style="list-style-type: none"> 生態系の保全の重要性を認識する 日本の絶滅危惧種や保全活動を調べてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 授業への取り組み 発問に対する対応 レポート
---	--------------	-------------	---	--

4 評価の観点

知識・技能	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物、現象の中に問題を見だし、見通しを持って、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物、現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

5 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

提出物は期限までに出すこと。

復習を行い、分からないこと、理解できないことはすぐに先生に質問するなどして、わからないままにしておかないでください。

授業は集中して聞いて、必ずノートを取ってください。

ノートやプリント等の提出物をしっかり提出してください。